

■「犬の胆汁障害性肝炎における急性期に QX-SCIO を使って対処したケース」

日本ホメオパシーセンター滋賀草津
JPHMA 認定ホメオパス No. 0775
JPHMA 認定アニマルホメオパス No. A0109
HMA 認定ホメオパス No. 1623
ZEN メソッド修得認定 No. 0087
今村 香 (いまむら かおり)

・ 主訴・クライアント

トイプードル オス 2004年8月14日生まれ

15歳高齢犬における胆汁障害性肝炎による食欲不振と元気さの消失

・ タイムライン

誕生時 兄弟の中で一番小さい

6ヶ月 去勢手術

高齢になって 歯周病で抜歯、白内障、聴覚の衰え、足のふらつき
胆嚢に問題がある(2018年6月ごろから)

■相談会1回目(2019年2月28日)

2.9Kg

4日前からの食欲の低下がありました。飲水量の増加や尿の色が濃く、便は粘液便でした。そして足元のふらつきがみられました。

検査項目	数値	正常値(目安)
AST	108	0~50 (U/L)
ALT	413	10~100 (U/L)
ALP	591	23~212 (U/L)

※検査項目の説明

ASTは肝細胞・骨格筋壊死により増加。ALTは肝細胞に存在する酵素で、増加は肝細胞障害が起こると認められる。ALPは肝臓と骨に分布している酵素で、胆汁うっ滞性肝障害で増加がみられる。

■ QX·SCIO とは

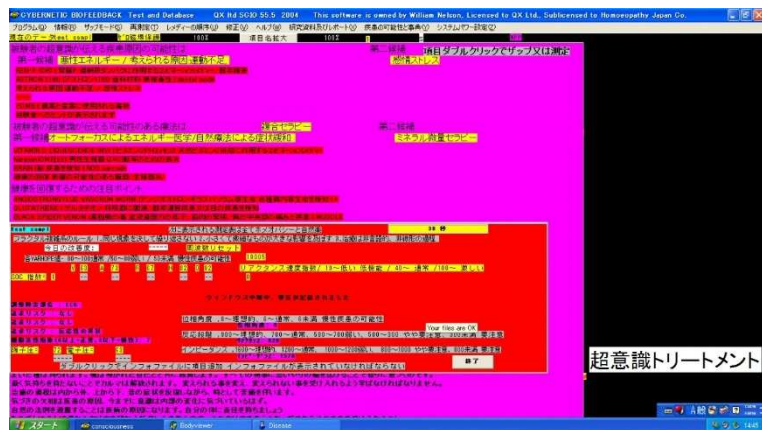


ビルネルソン博士が開発しました。生体の電気的情報<電圧・電流・抵抗>を測定して、身体や感情、潜在意識のエネルギー情報を得ることが出来ます。また、フィードバック機能によりエネルギーバランスを整えるように修正をうながすというシステムです。QX·SCIO は生体のエネルギー診断とセラピー機能を併せ持ちます。

QX·SCIO の診断ですが、主に 4 つの場面から検討します。SCIO 稼働後にでてくる全体の測定結果、超意識トリートメント、リスクプロファイル、ネルソンレポートです。



「測定結果」
後で検討します



「超意識トリートメント」
超意識トリートメントで潜在意識下での状態をチェックします。今回はここに脂肪便症や消化酵素ホルモン、脂肪の吸収を阻害するという言葉が見られました。



「リスクプロファイル」
リスクプロファイルの東洋生薬やミネラル、アミノ酸、アロマセラピーの画面を次々チェックして数値の高いものをみていきました。



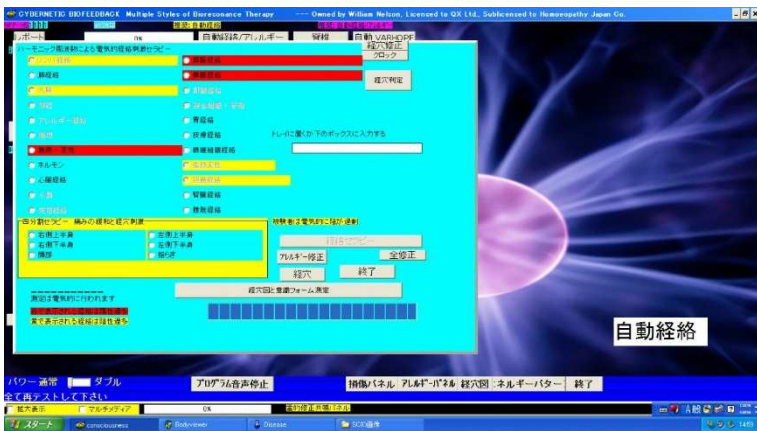
「ネルソンレポート」
ネルソンレポートというレポート形式になったものです。

最後に、最初に出てきた測定結果に戻ります。

これら4つの画面で出てくる重複した言葉と、クライアントの状態により次におこなうセラピーを決めました。

- ・ QX・SCIO による診断

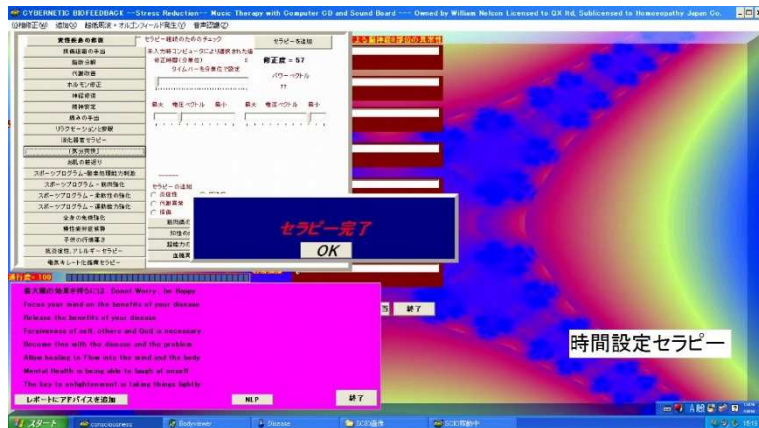
脂肪分解の困難、消化酵素の減弱、胆嚢・肝臓神経の過剰、内毒素、副腎バランスの悪化。
QX・SCIO 診断により大体の方向性が決まればセラピー・修正をおこないました。



- ・セラピー 自動経絡
経絡状態を修正するためです。



- ・周波数調整プログラム
臓器電気パターンを開始して脂肪分解トリートメントをおこないました。



・時間設定セラピー

太文字に表示されているところを
チェックします。これはQX・SCIO
が必要だと判断したものになりま
す。

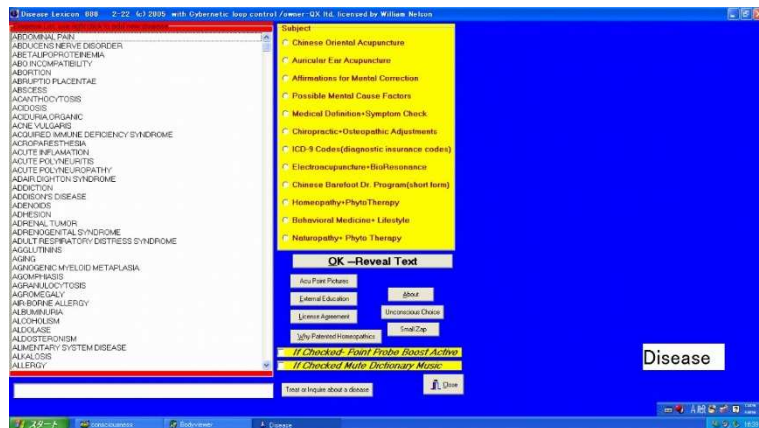
今回は脂肪分解、消化管セラピー、
気分の爽快、全身の免疫力強化、
慢性疲労症候群をおこないました。



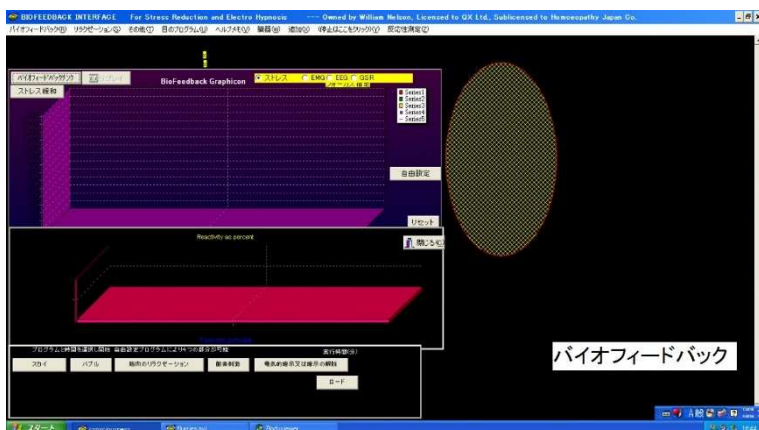
・Disease & BodyViewer

裏画面で動く Disease と Body
Viewer です。

BodyViewer は胃、肝臓、胆嚢、
肝臓経絡を選びました。



DISEASE では Gall bladder
disease や Liver Problems や
hepatitis を行いました。



・バイオフィードバック

経絡の過剰な熱の修正や腸内微生物
バランス、肝臓、免疫刺激、消
化、内分泌を行いました。

- ・ その後の状態
食欲の回復、足のふらつきがましになる

■2回目 2019年3月6日（初回の1週間後）

食事をとるときととらないときがある。

- ・ QX-SCIOによる診断（ネルソンレポートより）
小腸心臓経絡、骨の代謝、リンパの循環、小脳バランス、肺の障害、血液・白血球が少ない、副甲状腺、心臓、肝臓、解毒の問題
- ・ セラピー
血液トリートメント、骨の刺激、消化機能、循環、神経、リフレクソロジー、神経バランス、脳機能、解毒刺激、心拍の安定化、Disease、BodyViewer、バイオフィードバック
- ・ その後の状態
目に力が戻ってきた。後ろ足を踏ん張れるようになった。食事を完食した。
元気が戻ってきた。

■3回目 2019年3月19日

2日間、食事をとらない。黄色っぽい泡状の嘔吐がある。尿の色が濃くなった。

- ・ QX-SCIOによる診断（ネルソンレポートより）
肝臓、解毒、脂肪酸の問題、胃腸炎、アレルギーの問題
- ・ セラピー
血液トリートメント、骨の刺激、消化機能、循環、神経、リフレクソロジー、神経バランス、脳機能、解毒刺激、Disease、BodyViewer、バイオフィードバック
- ・ その後の状態
嘔吐が無くなった。自分から食事を食べだす。尿の状態も気にならなくなった。

■考察

肝炎では黄疸や体のしんどさや気持ちの悪さから食事がとれないといったことが多くあります。また、胆汁排泄が障害され肝炎になることはよくあることで、対応としては動物病院に行き、点

滴や吐き気止めなどの薬を投与してもらうことになります。

今回は病院に行く前に QX-SCIO をかけることで、体調を改善することができました。また、食欲の増加や胆汁排泄が整えられ調子を保つことができました。他には運動機能の改善もあり、歩様の元気が戻ってきました。

QX-SCIO では言葉で表現しにくい動物や小児も疾患の回復の手助けにもつながるため、今後の利用の幅も広がるのではないかと思います。

カテゴリー：[エネルギー医学 (SCIO)] [動物]